

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 56-3131 (呼)・有線2190 (呼)
- 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 56-1076 (呼)・有線2251 (呼)
- 立科町児童館/
午前11時40分～午後1時30分
電話 56-0303 (直通)
有線 8889 (直通)

※予約をされる方は児童館または小・中学校の
教頭先生へご連絡をお願いします。

「いじめ」の根絶のために

～いじめられっ子だった精神科医の提言に学ぶ～

立科町教育相談員 岩上起美男

数ヶ月前、二人のお子さんの母親であるAさんから、今もしばしば報道されている子どもたちの「いじめ」について、その構造や怖さを立科っ子にも伝えてほしい、そして、ぜひ思春期にある中学生に読んでもらいたい、「いじめのある世界に生きる君たちへ——いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉」(中井久夫著 中央公論新社発行)という本をいただきました。

いただいた本を手にし、著者名を認めた瞬間、何とも懐かしいような、嬉しいような感情がわきました。

と申しますのは、20数年前、ある先輩の方から、「風景構成法」という治療法と理論を創案した精神科医、中井久夫氏の本を読むことを薦められながら、全く歯が立たなかった苦い経験があるからです。そして、Aさんからいただいた本は、あの難解な本を著した方の著書とは思えないほど平明で、取っつきやすい印象であつたからです。

何となくAさんと著者から、当時の雪辱する機会を与えられたような心持ちで、この本を一気に読み終え、いじめられっ子だった著者からの提言を、またぞろ若いお節介ではないか、と案じながらも子どもたちに、親御さんに、そして、先生方にお伝えしようと考えました。立科町の児童・生徒誰もが、いじめのある世

界で、「いじめ」を克服し、充実した学校生活を送るために、極めて大切な提言であると思われたからです。

ただし、医療と教育の視点には微妙に異なる点があると思いますので、誤解や曲解の生じないように、教育相談員の立場から若干の補足(蛇足?)をさせていただきます。

①「いじめ」は、その時その場だけでなく、人の生涯にわたって影響を与えるもので、「いじめ」は犯罪ではないというのは幻想である。↑「いじめ」は、一過性のトラブルやケンカとは異なり、人権を侵害する差別行為であり、犯罪である。

②「いじめ」は、他人を支配し、言いなりにすることである。子どもたちの世界で、大人に気づかれない独特の仕組みによって、このような、他人を支配し、言いなりにする行為が進行している。◇「いじめ」が進行していく段階には、「孤立化」「無力化」「透明化」の三段階がある。恐ろしいことに、これは人間を奴隷にしようとするプロセスである。◇「孤立化」とは、ひとりぼっちにすることで、ひとりぼっちにされた被害者は、「警戒的超覚醒状態」になり、緊張しっぱなしで、おどおどし、自律神経系や内分泌系、免疫

系という体の大事な仕組みがおかしくなってしまう。◇「無力化」とは、「孤立化」によって、被害者から反撃する力を奪った上で、より過剰な「いじめ行為」や「大人に話すことは卑怯で、醜い」という価値観を巧妙に教育することによって、被害者を観念させることである。◇「透明化」とは、「いじめ」が見えなくなることである。人間には、「選択的非注意」という、自分が見たくないものを見ないでおくようにするメカニズムがあるが、見ようとしなければならず、加害者の「透明化作戦」によって、「いじめ」が見えにくくなっていくのである。この段階では、被害者は孤立無援で、反撃も脱出もできない自分が嫌になり、誇りを失う。体もこわばってしまう。さらに、被害者の世界は非常に狭くなり、加害者との関係がリアルな唯一の人間関係になり、まわりの大人や級友は別世界の住人のように遠い存在になる。◇このような被害者の心身の変調は、よほど目聡い大人の眼にしかとまらない。そのため、親や教師から、「誰かにいじめられていないか」と訊かれると、怒り出したり、暴力を振るったりすることさえある。それは、「何を今更。あれほどサインを出していたのに……。」という行為である。